

透析医療機関用

除害施設に係る届出別紙 記入例及び記入方法

注意事項

透析クリニック(腎臓内科のみ、30床規模、特定施設に該当せず)を想定した記入例です。

- ※ 特定施設とは、下水排除基準を超える水が排出される可能性が高く、排水の水質規制の対象となる施設(機械設備、生産工程、作業場などを指します。)のことで(*1)。
特定施設には該当しないものの、下水排除基準を超える水が排出される可能性が高い事業場は、除害施設(*2)を設置し、届出書を提出する必要があります。このため、人工透析装置の洗浄排水のpHが下水排除基準を超え、排水処理のためpH中和処理装置を設置する透析クリニックには、本記入例で紹介する「除害施設に係る届出別紙」を含む各種届出書の作成・提出をお願いします。
なお、特定施設に該当する場合は、記入方法が本記入例と異なります。特定施設に該当するか不明な場合や、該当する場合の記入方法などは、下水道事務所までお問い合わせください。

*1 特定施設:医療機関の場合、病床数が300以上の病院が該当

*2 除害施設:中和装置など、排水の水質を下水排除基準内に収めるための処理施設

目次

- p.1 1. 工場又は事業場の概要 特定施設の構造及び使用の方法
(1)工場又は事業場の規模等
(2)主要製品名及び生産量
(3)操業の系統(作業工程フローシート)
- p.2 (4)特定施設等の種類、構造、使用時間及び使用原材料
(5)特定施設等の設置場所及び特定施設等に関連する機械・装置の配置
- p.3 (6)特定施設等から排出される汚水等の汚染状態
2. 除害施設の構造及び使用の方法
汚水等の処理方法、下水の量及び水質、用排水の系統
- p.4 (1)汚水等の処理の系統(フローシート)及びその説明
(2)処理施設の種類、構造、使用時間及び消耗資材
(3)処理施設の設置場所及び配置
(4)処理施設別 汚水量及び水質
- p.5 (5)汚水等の処理によって生じる残さ及び濃厚廃液の種類等
(6)施設の施工者
(7)使用水量
(8)用水及び排水の系統
(9)公共下水道へ排除する下水の量及び水質

別添資料

- 別添資料1 施設配置及び用水・排水系統図
- 別添資料2 処理施設の配置、構造、処理方法
- 別添資料3 排水パターン、薬品リスト

様式ダウンロード等(参考URL)

- ・当局ホームページより様式のダウンロードができます。

トップページ>事業者の皆様へ>申請様式案内>事業場排水規制関連

<https://www.gesui.metro.tokyo.lg.jp/contractor/d2/todoke/suisitu/index.html#01>

※ 項目「○その他」25届出別紙(透析医療機関用)

- ・水質規制全般に関する情報(リーフレット「水質規制のあらまし」)

トップページ>事業者の皆様へ>水質規制情報

<https://www.gesui.metro.tokyo.lg.jp/contractor/d4/information/index.html>

※ 項目「○問い合わせ先」(ページ下部)の下にリーフレット「水質規制のあらまし(PDF)」あり

届出別紙の記入に必要な資料・情報の準備

記入例及び記入方法を参考にして、必要な資料・情報を準備してください。

<必要な資料・情報の例>

・病院又は診療所の平面図

透析装置・関連機器類の設置位置
給水経路(上水道)、薬液供給経路、排水経路
排水処理装置の設置位置

→別添資料1 施設配置及び
用水・排水系統図の記入に必要

・水のフロー図(模式図)

人工透析中及び透析装置洗浄中の装置・機器間の水の経路

→p.1 (3) 操業の系統(作業工程フローシート)の記入に必要

・透析装置・関連機器の装置カタログ、薬品カタログ、メーカー設計計算書等

各機器の形式・寸法など構造に関する情報

透析装置の洗浄パターン・水量

各機器で使用する薬品の名称・成分

→p.2 (4) 特定施設等の種類、構造、使用時間及び使用原材料、p.3 (6) 特定施設等から
排出される汚水等の汚染状態、別添資料3 排水パターン、薬品リストの記入に必要

・排水処理施設(装置)の装置カタログ、薬品カタログ、メーカー設計計算書等

処理方法、能力、装置の配置や寸法

処理前後の排水の想定水質・水量

処理施設で使用する薬品の名称・成分

→p.3 (1) 汚水等の処理の系統(フローシート)及びその説明、p.4 (2) 処理施設の種類、
構造、使用時間及び消耗資材、別添資料2 処理施設の配置、構造、処理方法、
別添資料3 排水パターン、薬品リストの記入に必要

・水量計算用資料

事業場全体の使用水量が分かるもの(水道料金請求書・水道メーターの数値等)

→p.5 (7) 使用水量の記入に必要

届出別紙の記入

記入例を参考に記入してください。

■ 水量や水質について、実測できない場合は推定値を記入してください。

■ 不明点がございましたら、所管の下水道事務所へお気軽に御相談ください。

■ 担当職員が届出書の下書きを確認し、修正点や不足書類の有無を事前にお伝えすることも可能です。

※事前確認に御協力いただけますと、届出書提出の際、職員の書類確認等によりお客さまを窓口
でお待たせする時間を短縮することができます。

届出別紙の提出

(届出書提出時・提出後)

※担当職員より、届出内容に関する質問や修正、追加書類の提出をお願いすることがあります。

工場又は事業場の概要

1. 特定施設の構造及び使用の方法

(1) 工場又は事業場の規模等

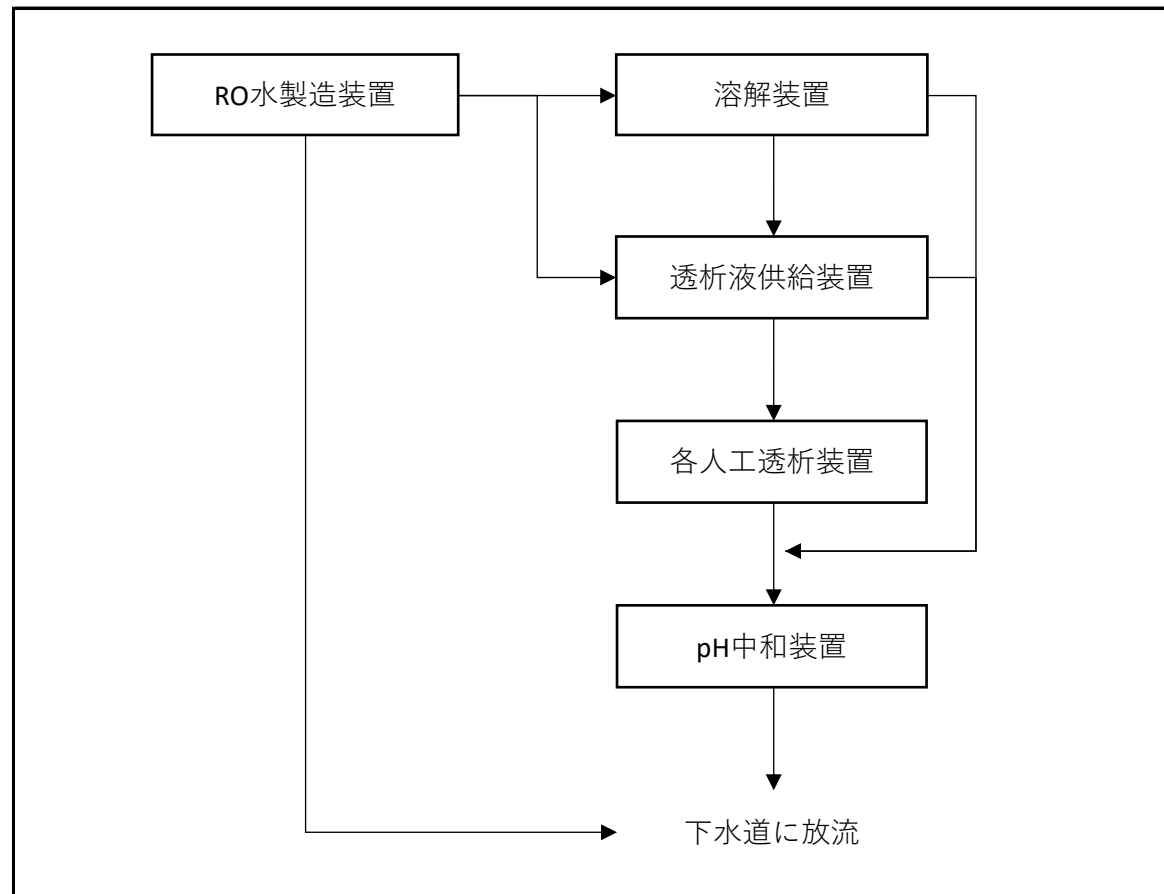
業 種	病院	資 本金	〇 万円	敷地面積	〇 m ²
当該事業場 創業年月日	平成27年7月1日	従業員数	10 人 (30) 人	作業場面積	〇 m ²
操業時間	9時 ~ 18時 (9 時間)	休 業 日	日・祝日	水質管理 責任者	〇〇 〇〇

(2) 主要製品名及び生産量

一般内科、腎臓内科

人工透析 〇人/日、入院患者用の病床 〇床

(3) 操業の系統（作業工程フローシート）



(1) 工場又は事業場の規模等

- 創業年月日：現在地で実際に診療を開始した年月日を記入してください。
- 操業時間：診療開始時刻と終了時刻及び診療時間（休息・休憩時間を含む。）を記入してください。
曜日によって異なる等、書ききれない場合は、次の“(2) 主要製品名及び生産量”の欄に記入しても構いません
- 資本金：単位は「万円」で記入してください。
- 従業員数：届出の対象となっている病院・診療所の従業員数（パート又はアルバイト等、透析にかかわらない職員を含む。）を記入してください。
なお、他に本社等がある場合は、全従業員数を（ ）内に記入してください。
- 休業日：例えば「日・祝日」、「月・第四木曜日」のように記入してください。
- 水質管理責任者：有資格者がいて、水質管理責任者として選任し、「水質管理責任者選任等届出書」を既に提出している場合、記入してください。届出時点で未選任の場合は、空欄で構いません。

(2) 主要製品名及び生産量

記入例を参考に、診療科目、透析治療の患者数を記入してください。
診療時間を(1)に書ききれなかった場合は、こちらに記入してください。
入院患者用の病床（ベッド）がある場合は、病床数も記入してください。
※ 日帰りの透析患者用のベッドは、病床数としてカウントしません。

(3) 操業の系統（作業工程フローシート）

記入例を参考に、人工透析中及び透析装置洗浄中の水の流れを図示してください。
書ききれない場合や他に資料がある場合は、別紙参照としても構いません。

(注) 各装置の洗浄排水でpH基準超過のおそれのあるものはpH中和装置に流入させてください

第2号の2様式（透析医療機関用）

(4) 特定施設等の種類、構造、使用時間及び使用原材料

施設番号	1～30	31	32	33	34	
施設の名称	透析装置 30台	RO水 製造装置	A剤 溶解装置	B剤 溶解装置	透析液 供給装置	
形式	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	
構造	ステンレス製	ステンレス製	ステンレス製	ステンレス製	ステンレス製	
主要寸法	W1000×D500 ×H820	W1000×D500 ×H820	W1000×D500 ×H820	W1000×D500 ×H820	W1000×D500 ×H820	
能力	〇～〇 mL/min	〇 L/h	〇～〇 L/h	〇～〇 L/h	〇 L/h	
工事着手 (予定)年月日	平成27年 6月1日	平成27年 6月1日	平成27年 6月1日	平成27年 6月1日	平成27年 6月1日	
工事完成 (予定)年月日	平成27年 6月20日	平成27年 6月20日	平成27年 6月20日	平成27年 6月20日	平成27年 6月20日	
使用開始 (予定)年月日	平成27年 7月1日	平成27年 7月1日	平成27年 7月1日	平成27年 7月1日	平成27年 7月1日	
使用時間間隔及 び1日当たりの 使用時間	9時～18時 (9時間)	9時～18時 (9時間)	9時～18時 (9時間)	9時～18時 (9時間)	9時～18時 (9時間)	
季節変動の概要	なし	なし	なし	なし	なし	
使用原材料の 種類、使用方法 及び使用量	使用薬品及び 洗浄方法は別 添資料3のと おり	なし	使用薬品及び 洗浄方法は別 添資料3のと おり	使用薬品及び 洗浄方法は別 添資料3のと おり	使用薬品及び 洗浄方法は別 添資料3のと おり	
その他						

(4) 特定施設等の種類、構造、使用時間及び使用原材料

人工透析及び透析装置洗浄に使用する施設について、番号を付して名称を記入してください。

ここでいう「施設」には、透析クリニックの場合、透析装置、RO水製造装置、溶解装置、透析液供給装置等の医療機器が該当します。

これら以外に水を排出する装置・機器がある場合は、下水道事務所までお問い合わせください。

※トイレや事務室の手洗い場など、生活排水のみが排出される施設については、記入不要です。

既設の施設で、時期等が不明の場合は、「既設」と記入しても構いません。

・使用する薬品・溶液等の名称を記入してください。

例：〇%次亜塩素酸ソーダ
〇〇社製透析液A液（製品名称××）

・各装置を洗浄、消毒する日時、洗浄フローを記入してください。
枠が限られているため、記入例のように「別添資料3のとおり」とし、別添資料3に記入してください。

(5) 特定施設等の設置場所及び特定施設等に関連する機械・装置の配置 別添資料1のとおり

施設番号		1~30	31	32	33	34	
施設名称		透析装置30台	RO水製造装置	A剤溶解装置	B剤溶解装置	透析液供給装置	
汚水量 (m ³ /日)	通常	13.2	4.8	0	0	0	
	最大	14.1	4.8	0.1	0.1	0.3	
水質 <small>／単位・温度、ダイオキシン類を除きp m g</small>	pH	通常	3~9	6~8	5~9	5~9	5~9
		最大	1~10	6~8	2~10	2~10	2~12

(6) 特定施設等から排出される汚水等の汚染状態

p.2(4)で記入した施設から排出される水について記入してください。
施設の番号及び名称はp.2(4)や別添資料1と一致させてください。

汚水量：各施設の排水量を記入してください。
曜日によって異なる場合は、最少の日水量を「通常」に、最大の日水量を「最大」に記入してください。

水質：各施設から排出される水の水質を記入してください。

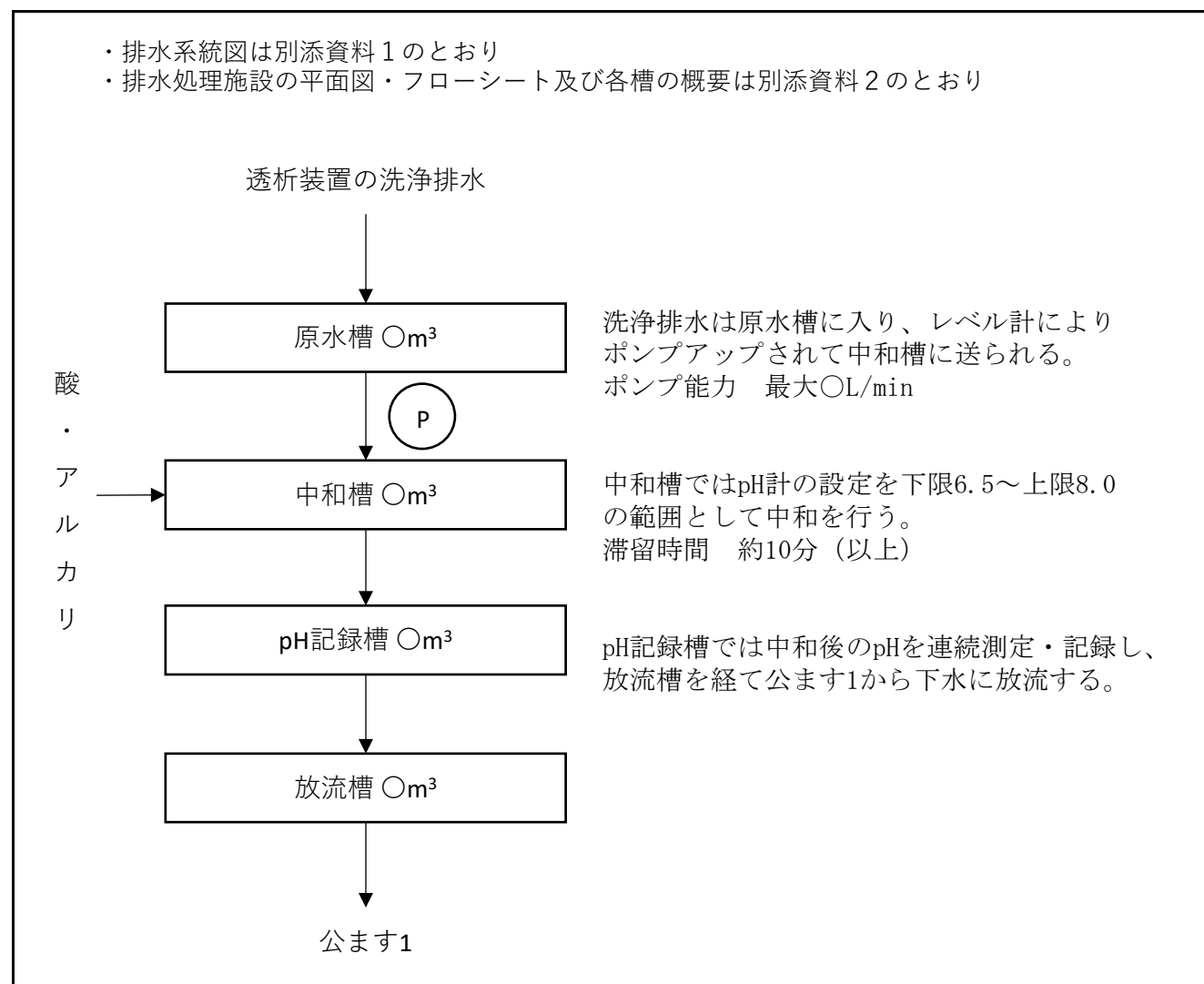
この記入欄においては、必ずしも実際の排水の水質を測定する必要はなく、使用薬品からの推定値を記入(※)しても構いません。

また、一般的な透析クリニックの場合は、記入例のようにpHのみの記入で構いません。ただし、病床数が300以上の病院や排水量が50 m³/日以上の場合は、記入方法が異なりますので、下水道事務所までお問い合わせください。

※ pHの推定及び記入方法
使用薬品のpHを実測するか、カタログや安全データシート(SDS)に記載されたpHの情報を基にして、「その装置で使用する最も酸性の強い薬品のpH値(例：酸洗浄剤のpH)～最もアルカリ性の強い薬品のpH値(例：消毒剤のpH)」など、幅を持たせて記入してください。
通常欄には普段使用している薬品濃度でのpH、最大欄には使用最大濃度でのpHを記入してください。

2. 除害施設の構造及び使用の方法
汚水等の処理方法、下水の量及び水質、用排水の系統

(1) 汚水等の処理の系統(フローシート)及びその説明



(1) 汚水等の処理の系統(フローシート)及びその説明

透析装置の洗浄排水の処理工程を記入してください。
付属機器の能力、槽の有効容量、処理条件等についても記入してください。
書ききれない場合や、他に資料がある場合は、別紙参照としても構いません。

(2) 処理施設の種類、構造、使用時間及び消耗資材

処理施設の名称	中和 処理装置	使用時間間隔及び1日当 たりの使用時間	9時～18時 (9時間)
形 式	2点中和	季節変動の概要	なし
構 造	PVC製	消耗資材の種類、用途及 び使用量	水酸化ナトリウム (10%) 硫酸 (5%) 又は 別添資料3のとおり
主 要 寸 法	別添資料2のとおり		
付 属 機 器 類	pH電極センサー		
能 力	別添資料2のとおり		
処理の方式	2点中和		
工 事 着 手 (予定) 年月日	平成27年 6月1日	その他	
工 事 完 成 (予定) 年月日	平成27年 6月20日		
使 用 開 始 (予定) 年月日	平成27年 7月1日		

(2) 処理施設の種類、構造、使用時間及び消耗資材

排水処理施設（中和処理装置）の能力等を記入してください。
寸法や能力、消耗資材（薬品）については、別添資料2及び3参照としても構いません。
排水処理施設が2種類以上ある場合の記入方法は、下水道事務所までお問い合わせください。

(3) 処理施設の設置場所及び配置 別添資料1及び2のとおり

(4) 処理施設別 汚水量及び水質

処理施設の名称		中和処理装置	
汚 水 量 (m ³ /日)	通常	13.2	
	最大	14.6	
水 質 オ除単 キシ位 シm・ ンg温 ノ度 類ノ は1、 P p g ダ T イを	p H	処理前	1～12
		処理後	6.5～8.0

(4) 処理施設別 汚水量及び水質

汚水量（通常）には、別添資料3などで算定した、処理施設に流入する水量を記入してください。
水質（処理前）には、処理施設に流入する水（処理原水）の水質を記入してください。
実測できなければ、p.3(6)で記入した水質からの推定で構いません。
記入例の場合> 処理施設に流入するのはNo.1～30、32～34の排水なので
最低値は装置No.1～30のpH=1
最高値は装置No.34のpH=12 となる。
水質（処理後）には、処理後の水（下水道へ放流する水）の水質（※）を記入してください。
※必ず下水排除基準値内となります。

(5) 汚水等の処理によって生じる残さ及び濃厚廃液の種類等

残さ等の種類			
生成量			
含水率			
保管方法			
処理・処分 の方法			
処理業者			

(5) 汚水等の処理によって生じる残さ及び濃厚廃液の種類等

中和処理により、廃棄物（残さ、濃厚廃液）が発生する場合は、その内容を記入してください。

※ 残さとは、排水処理の過程で発生する、汚泥や堆積物等の固形廃棄物のことです。

透析排水の中和処理装置では一般的に残さは発生しませんが、
不明な場合は処理装置メーカーに問い合わせてください。

※ 濃厚廃液とは、廃酸や廃アルカリ、有機溶剤のことです。

排水処理に関係しない廃棄物（廃プラスチック等）を記入する必要はありません。

廃棄物の委託処理を行う場合、運搬・処理業者との契約内容が確認できるもの（契約書の写し等）を添付してください。

(6) 施設の施工者

名称	東京施設施工 株式会社
住所	東京都新宿区西新宿2-8-1

(6) 施設の施工者

排水処理施設（中和処理装置）の施工者について記入してください。

(7) 使用水量 (m³ /日)

給水源	用途	透析排水	RO廃水 (直接放流)	生活用水	その他 () ()		合計
		上水道	13.2	4.8	1		
工業水道							
その他 ()							
合計		13.2	4.8	1			19

(7) 使用水量

使用水量の合計は、水道料金請求書や水道メーターの数値等を基に、

使用水量を病院・診療所の営業日数で割って1日当たりの使用水量を算出してください。

透析排水の使用量は、p.4(4)の汚水量（通常）と一致します。

生活用水の算出方法は主に2つあります。

パターン①> 合計水量から生活用水以外の水量（透析排水、RO廃水など）を差し引く方法

パターン②> 従業員1人当たり0.1m³/日として概算する方法。記入例の場合> 0.1m³/日/人×10人=1m³/日

その他の排水がある場合は、それらも記入してください。

(8) 用水及び排水の系統 別添資料1のとおり

(9) 公共下水道へ排除する下水の量及び水質

排出口番号		1	2		
排出口の名称		公ます1	公ます2		
排水量 (m ³ /日)		通常	18	1	
		最大			
水質	pH	通常	5.5~7.5	生活排水	
		最大	5.2~8.5	のみ	
オ除単 キキ位 シm・ ンg温 ノ度、 類は1、 1 P gダH Tイを					

(9) 公共下水道へ排除する下水の量及び水質

公共下水道へ接続する排出口（公ます）ごとに、流入する下水の水量と水質を記入してください。

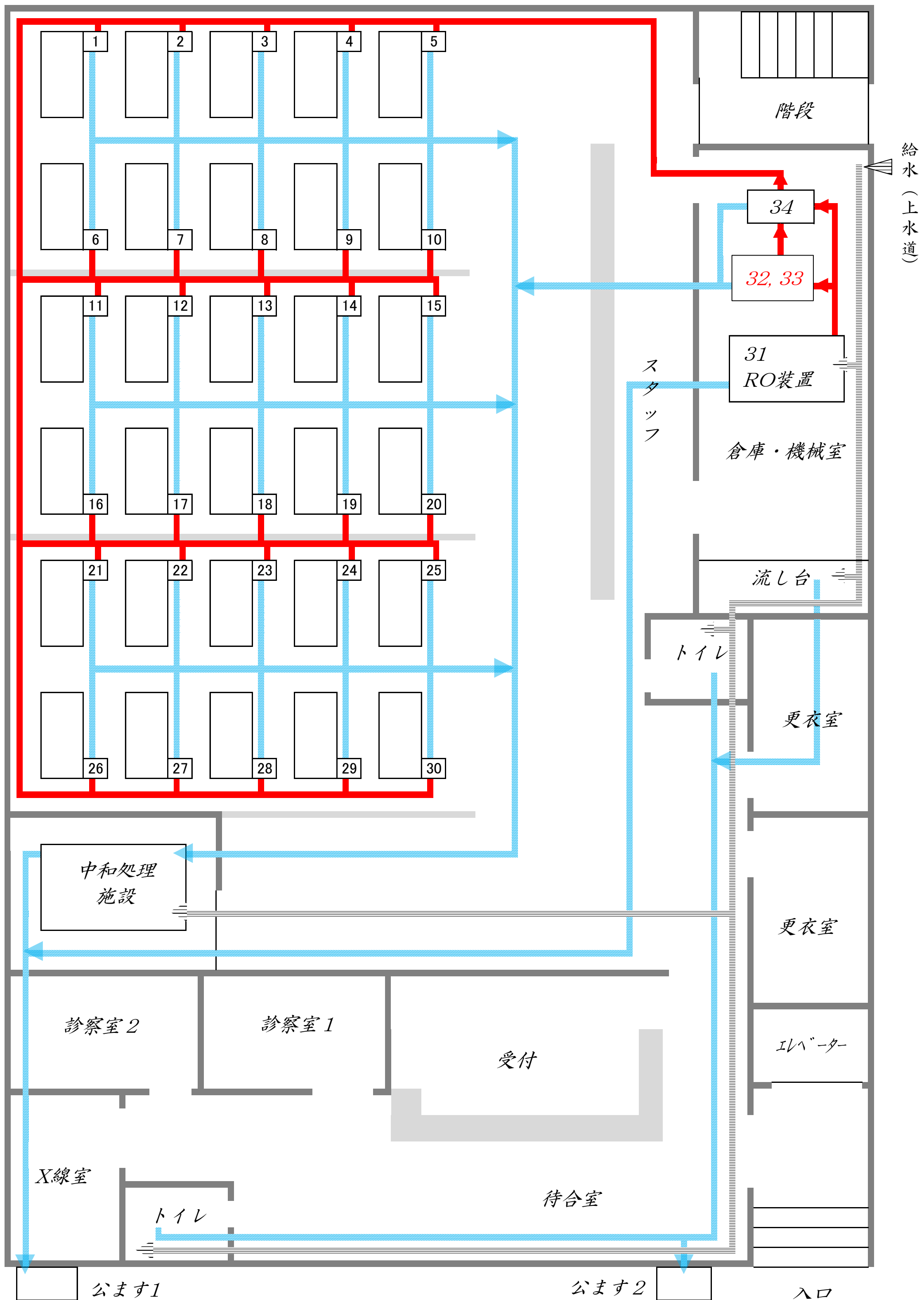
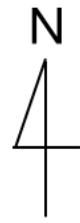
排出口番号及び排出口の名称は、別添資料1と一致させてください。

※ 排水量（通常）の合計は、前項（7）の合計水量と同じになります。

※ p.3(6)と同じ水質項目（ここではpH）について記入してください。

生活排水しか排出しない公ますについては「生活排水のみ」などとし、水質の記入は不要です。

給水経路 (上水道) 薬液供給経路 (RO水・透析液) 排水経路



必要な情報

透析装置・関連機器類の設置位置
給水経路（上水道）、薬液供給経路、排水経路
排水処理装置の設置位置

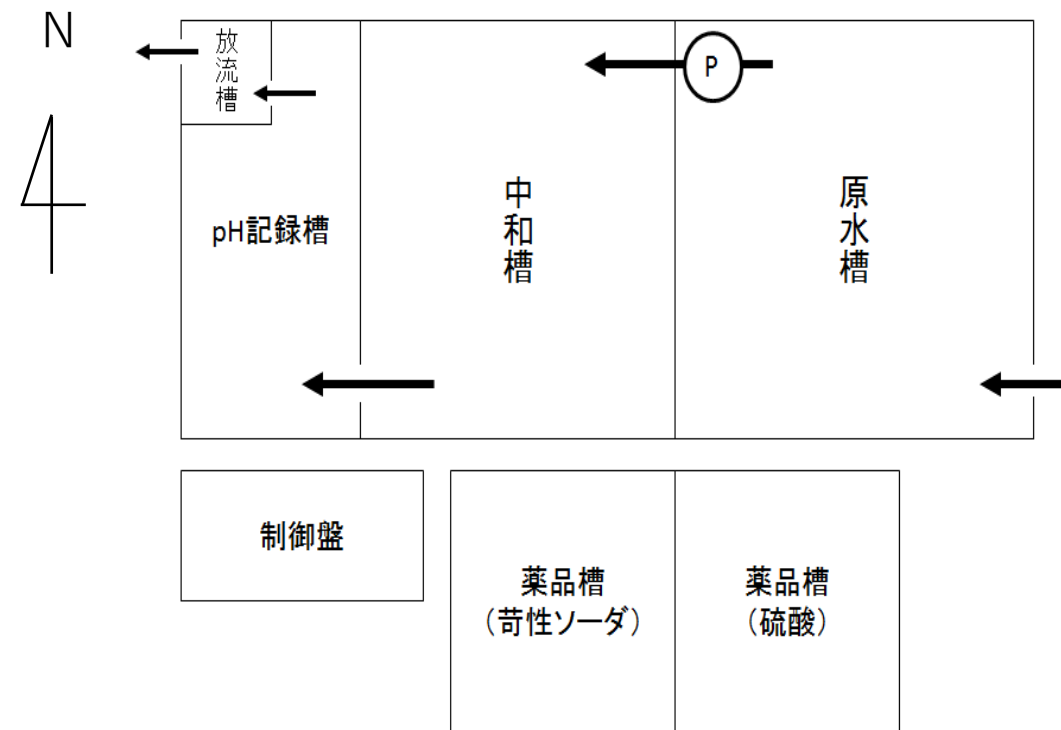
届出別紙の対応項目

p.2 (5) 特定施設等の設置場所及び特定施設等に
関連する機械・装置の配置
p.4 (3) 処理施設の設置場所及び配置
p.5 (8) 用水及び排水の系統

既存の図面があれば、自作不要です（不足情報があれば、手書き等で追記してください）。
様式は自由です。給水系統図面、排水系統[配管]図面、装置等の設置箇所図面、公共ます位置
図面など、それぞれ別の図面に分けて提出することも可能です。

別添資料 2 処理施設の配置、構造、処理方法

(1) 処理施設の配置図及び排水系統(平面図)



※処理施設の設置場所は別添資料1のとおり

(2) 処理装置の仕様

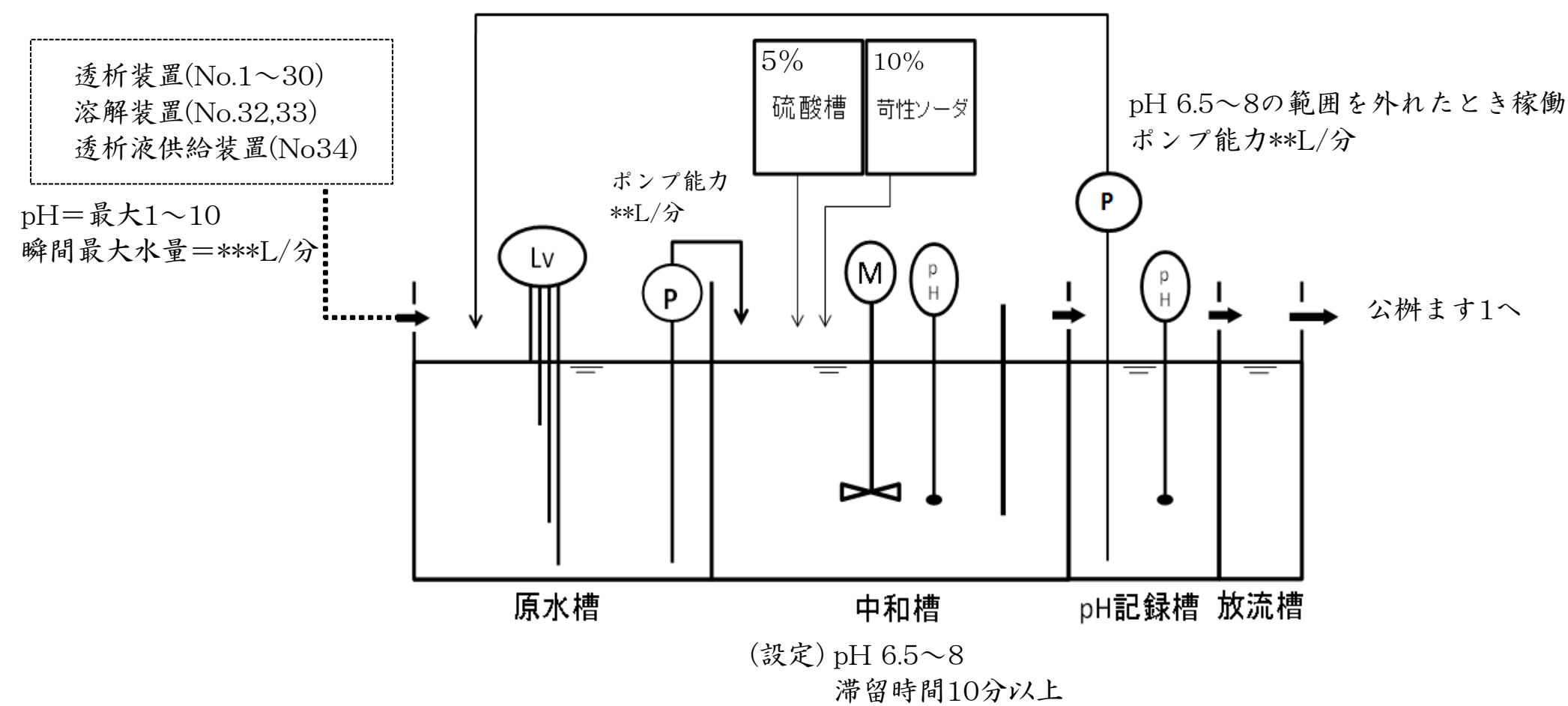
項目	仕様
処理量[m ³ /h]	***~****
ポンプ能力[m ³ /min]	***~****
原水pH値	pH 1~11.5
原水温度[°C]	***~****
処理水pH値	pH 5.8~8.6の範囲で設定
周囲温度[°C]	0~40

表 各槽の寸法及び有効容量

槽の名称	寸法[mm] 幅×奥行×高さ	有効容量[m ³]	材質
原水槽	800×800×1200	0.6	FPR製
中和槽	700×800×1200	0.5	***製
pH記録槽・放流槽 (うち放流槽)	400×800×1200 (200×200×1200)	0.3 (0.06)	***製
薬品槽 (苛性ソーダ)	500×500×1200	0.3	***製
薬品槽 (硫酸)	500×500×1200	0.3	***製

(3) 処理フロー・処理条件

※RO水製造装置 (No.31) の排水は処理施設へ流入せず直接下水道へ放流する (公ます1)
 ※手洗い等の生活排水も直接下水道へ放流する (公ます2)



届出別紙の対応項目

p.3 (1) 汚水等の処理の系統 (フローシート) 及びその説明
 p.4 (3) 処理施設の設置場所及び配置

必要な情報

処理施設の各設備 (水槽、薬品槽、ポンプ等) の配置
 処理能力 (原水の想定水質・水量)
 水槽の寸法、有効容量
 処理条件 (ポンプの送水能力、薬品の注入設定など)

- ・ 様式は自由です。
- ・ 既存の図面があれば、自作不要です(不足情報があれば、手書き等で追記してください。)
- ・ 処理装置の仕様書や設計計算書があれば、それを提出してください。
- ・ (1)~(3)を、それぞれ別の資料に分けて提出しても構いません。

